

平成 30 年 9 月 30 日

平成 29 年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人大麻学園
四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大麻学園四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 29 年度自己評価報告書に基づき、以下のとおり学校関係者評価を実施いたしました。

1 学校関係者評価委員

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博 (宇多津町 町長)
- ・業界団体の役職者
石原 誠 (香川県柔道整復師会 会長)
佐々木 勝 (香川県鍼灸師会 会長)
山本 英介 (香川県鍼灸マッサージ師会 会長)
田岡 和代 (香川県理学療法士会 理事)
五味 陽子 (香川県作業療法士会 監事)
中村 明美 (香川県看護協会 会長)
- ・卒業生代表
徳安 栄華 (柔道整復学科同窓会長)
村川 琢人 (四国医療リハビリテーション同窓会長)
- ・関係する高等学校
真部 卓一 (英明高等学校 理事長)
- ・在校生の保護者代表
田中 真紀

2 学校関係者評価委員会議事録

- 開催日時：平成 30 年 7 月 1 日（日）13:00～14:45
- 会 場：四国医療専門学校 3 号館 3 階レクリエーション室
- 出席委員：谷川俊博、真部卓一、石原誠、佐々木勝、山本英介、田岡知代、五味陽子、
徳安栄華、村川琢人、
出席本校役職者：大麻悦治、笠井勝代、大麻陽子、青木みゆき

■欠席委員：中村明美、田中真紀、

■議事

1. 学校長より挨拶が行われた。

2. 本校の自己評価報告の概略説明

教務部長より本校の自己点検評価において、平成 29 年度より新たな評価様式を使用して評価を行った旨を説明し、評価結果を報告した。

3. 意見交換

- ・入試の方法として、中途退学防止のために心身障害の有無をみる審査を行っているのか。行っていれば入学する前の段階から入学者の選定ができるのではないかな。

- ・入試の段階では行っていない。面接の中で見極めるようにしている旨の返答がされた。

- ・高等学校の調査書では疑われる学生はいるが、面接時間が 15 分間と短く客観的に判断が出来るまでには至らない。教育者として入学後に成長するよう教育していくという観点もある。

- ・柔道整復師の国家試験が厳しくなっている。在籍している学生が少しでも国家試験に合格するように教育して行く。委員の皆さんからのアドバイスがあればお願いしたい。

- ・大麻学園の教育方針は英明高等学校では高い評価をしている。良心的に面倒をよく見られている。ここ 2,3 年国家試験が厳しい状態であるが、教員の皆さんが協力して取り組んでおられると感じている。お門違いの話しになるかもしれないが、気になる点は学校の入学試験の受験料は募集要項のどこに記載されているのか。受験するときには受験料が必要になるが、受験料等はわかりやすいところに記載する必要があるのではないかな。受験料の高い安いが他校との比較になるので。

学費を一括払いでなく分割にする方法もある。高等学校では、だいたい前から 12 回に分けての分割を行っている。アルバイトを行っても 6、7 万円くらいは稼げる。計算すると月の学費に近いくらいにはなる。学費の滞納者はどれくらいの人数になるか。

- ・手元に資料がないが全学科で幾分いると思われる。

- ・最初から分割にすると低所得層からの滞納が少なくなる。納付が遅れても容認すれば支払いをしてくれる場合が多い。英明高等学校では、25 年間で卒業時での滞納は 0 名である。あと、四国医療の卒業生をみていると当校では学生を育てる力はあるので、自信を持って

取り組んだらよいと思う。

- ・卒業後の就職等はどこに記載があるのか。
- ・パンフレットの p 33 に就職一覧の記載がされているが、小さく記載されている。
- ・就職先は、どのくらいの初任給を貰えるところなのか。卒業後の就職等の記載を充実させた方が、安心して進路を決められるのではないか。
- ・奨学金制度についてはかなりわかりにくいので、わかりやすい記載の方が良い。英明高等学校では、以前から入学生への奨学金的な意味合いで入学金の一律減額を実施した。反対意見はかなりあったが結果としては良かった。香川県の全体の中学生の3分の1くらいは、受験をしてくれている。
また、英明高等学校は総額 4000 万円の奨学金的なものをだしている。大半が学費の問題とか入学金を払ってこない人に貸している。
- ・福祉施設や老人ホームの世話をする人が不足している。老人ホーム等ではリハビリテーションや世話ができるマッサージができる人が増えていけば給料もあがり、雇用環境も良くなるのではないか。地域密着型の施設やレベルの高い老人ホームを作ったらどうか。ここで作ればレベルの高い施設ができると思う。
- ・柔整は全国的に定員割れ、岡山県は夜間部から昼間部に変更してもらって修了している。夜間部はなくなる方向。全国的に定員を減らすなど行われている。我々の時は全国で 14 校しか養成校がなかったが、現在は、117 校に養成校が増加している。需要と供給のバランスが取れていない。柔整師が増えているのに収入は激減している。昔は整形外科が少なかったこともあり、患者が多かった。学校教育は現在の方がレベルは高い。四国医療専門学校レベルも高い。夜間部があるのは大変ありがたいが、厳しいと思われる。大学志向になって、学生は大学を希望するようになっている。
- ・JR については、坂出に比べて宇多津は少し不利だと思う。高松からだ坂出まではスムーズであるが、乗換で待ち時間などが長い。スクールバスがあると利便性があがるのではないか。運転手を雇うのではなく、用務員を雇い時間によって運転するなどするのはどうか。
- ・高校などでは 3 年制の学校と 4 年制の学校では 3 年制を勧めるのではないか。大学もしくは 3 年制の専門学校にシフトしている。4 年制の専門学校のままでは流れに遅れるのではないか。

- ・最終的には質が勝つ。レベルが高い層が多くなれば、外部から転校してでも来る。

(3 年制と 4 年制についてのご意見はありますか。)

- ・私の場合は最終的な判断は、保護者が行った。3 年制と 4 年制の両方の OC に参加して相談の上で決めた。自宅から距離はあったが、楽しく過ごすことができたので良かったと思う。保護者が学校の理念等をしっかりと読んで理解し、教育的に良いと判断をした。社会人経験者が最近が多いと思うが、そうすると短い年数の方が有利だと思う。
- ・3 年制では社会人経験者が多い印象であり、自宅から近い所に通っている方が多い。
- ・リハ職種で、3 年制と 4 年制で就職する際に違いはあるのか。
- ・基本給が若干 4 年制の方が高い印象である。
- ・ある学校の栄養科は 3 年制であったが、近隣に 2 年制の栄養科ができたことでつぶれてしまった。しかし、卒業生の満足度などでは、4 年制の方が上だと思う。4 年制でも将来的な展望があればよいのではないかと。国家試験の合格率は、気にするべきである。
- ・最近、時代が違ってきており、遊びながら学ぶ。親が学費を出しながら学ぶので、学生本人にとっては 1 年でも長い方が喜ばれるのではないかと。
- ・看護が大学の方向になってきている。リハの方もその流れが気になってきているのではないかと。
- ・3 年制より 4 年制の方が卒後は良い。学費の分割払いがあれば経済的なものも解消されるのではないかと。
- ・当校では金額面でシビアな面がある。滞納に関しても厳しいイメージがある。もう少し柔軟な対応が必要なのではないかと。
- ・事務局がライバル校の学費などの情報を集めて対抗するための戦略を考えてはどうか。
- ・職種によっては、業界の関係もあり、このままでは無くなっていく可能性もある。業界にとって養成校がなくなってもいいのか。業界として、養成校に協力していく観点で授業料等の援助などは考えられないか。

- ・私は大学にする方がよいと思う。
- ・大学も都会ならば人も集まるだろうが、地方だと人が集まらない。沖縄のように遊べるところがあれば、人が増えるかもしれないがそうでなければなかなか集まらない。業界が発展すると大学が増えるのであって、大学になるから人が増えるわけではない。
- ・本校の課題は、退学者が増えてきている点で、中途退学者を減らすように努力していく必要がある。また、開校して年数が経つので備品等の経年劣化が目立ち、メンテナンスが必要になってきている。最近では、不審者情報も増えてきており、学校としても注意して行く必要性を感じている。近年の入学者の推移から考えると、このままでは経営が厳しい状況になってきている。改善して行くのが緊急の課題と考えている。

以上